

エコ貯金で環境保全へ

西武信用金庫の助成金制度、3年目に

西武信用金庫が主催する「西武環境保全活動助成金制度」が今年で3年目を迎えた。エコ貯金の利息の一部を活用し、地域で環境活動に取り組むNPOや団体を支援。10月13日に中野区と同金庫本店で開かれた選考会では、昨年の倍以上に当たる11団体が助成先に選ばれた。

この制度は、同金庫が毎年募集する「eco・定期預金」の税引後預金金利の内、20%相当額を環境活動の支援に活用する。預金自体がエコ活動となり、預金者自身が助成先団体の活動に参加することもできる仕



選考会には本誌副編集長・木村も選考委員として参加。「活動内容が地域に浸透するように、広報活動にも力を入れて」と選考団体にアドバイス

組みだ。

同預金の規模は着実に伸び、昨年の第2回募集では第1回の約3倍、34億2千万円が集まった。助成額は1団体につき20万円で、草の根で活動するNPOにとって励みになる金額だ。

助成先の活動内容もバラエティーに富む。日本リ・ファッション協会(中野区)は衣類のリメイクやリサイクルを通じて伝統の知恵を見直し、ライフスタイルを変えることを目指す。環境エネルギー政策研究所(中野区)は既存のエネルギーから自然エネルギーへの「エネルギーシフト」を提唱。また、みのり村(小平市)は同市内で多摩の自然を活かした学習型体験農園を運営する。

エコ貯金を活用した西武信用金庫の同制度。地域を基盤に金融活動を展開する信用金庫の「新たな社会貢献のかたち」として注目される。